



元号が“平成”から“令和”に変わり、1ヶ月が経とうとしています。いろいろな場面で「令和」という文字を見かけ、みなさんも少しずつ慣れてきたころでしょうか。今年度がスタートして、2ヶ月が過ぎましたが、みなさん自身も新しいクラスの居心地が良くなってきたころだと思います。

先週の金曜日は、5月とは思えないくらい暑い中、無事に体育大会を終えることができました。どの学年も一生懸命競技に取り組む姿がとてまかつよかったです。この体育大会の中で、グッと心にくる場面が何度もあり、胸が熱くなりました。きっとみなさんにとっても忘れられない“熱い”体育大会になったのでしょね。体育大会で感じた思いを忘れず、これからの学校生活に生かしてくれることを期待しています。

この“明日への扉”（道徳通信）も今年度で3年目となりました。昨年度に引き続き、ひと月に1度、発行します。ホームページにもアップしますので、おうちの方と一緒に見てもらえたらと思います。「心の豊かな人になってほしい、地域に貢献できる人になってほしい」、これが私たち春日丘中学校の教職員の願いです。



＊－＊－＊－＊－＊授業の様子を紹介します－＊－＊－＊－＊

“みんなで跳んだ！”

4月からはじまった授業もこの授業で3回目になりました。GW明けの7日の授業では、体育大会に関連した教材を使いました。春日丘中学校ではもはや恒例！？

となっている大縄跳びのお話です。現2，3年生も1年生のときに授業をしたことと思います。内容は、大縄跳びが苦手な仲間のいるクラスの話で、その彼に応援係になってもらうのか、最後まで共に跳ぶことに挑戦するのか、生徒たちの葛藤が描かれています。教材の途中で、大切なこと…応援係になっていた彼の思いを聞いていなかったことに気づく生徒の姿があり、その場面に触れたときに、1年生のみなさんの表情がパッと明るくなりました。1年生らしく友情を大切にしたいと考えた人が多かったのですが、結果にもこだわりたいと書く人もいました。練習では大縄跳びがなかなかうまく跳べなかった1年生ですが、体育大会当日はどのクラスも心をひとつにし、みんなで声を出し跳び続ける姿が、とても印象に残っています。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・はじめは応援係に賛成だったけど、反対の人の「みんなで跳ぶから価値がある」という意見を聞いて納得した。今回の道徳の授業で結果よりも大切なものがあるということがわかった。
- ・結果よりも友情を大事にしたほうがいいと思った。クラス一丸となって大縄を跳ぶ姿に感動した。
- ・できないからやらないじゃなくて、できるように仲間と一緒に頑張ることが大切だと思った。そして、周りの人は仲間のことをよく考えることが大切だと思った。
- ・この授業をして、この問題は体育大会のことだけでなく、合唱コンクールや他の行事、いじめなどの問題にもあてはまるのではないかと思った。たくさんの人が楽しめる世界にしたいなと思った。
- ・今日の授業は、自分だけでなくクラスのことを考える大切さを学んだ。結果よりも嬉しいことや素晴らしいことがあるということを知った。



“遠足で学んだこと”

2年生になって、新しいクラスにも慣れてきた様子です。体育大会の練習が始まり、クラスで頑張ろうという雰囲気が出てきた5月7日の道徳の授業についてです。

遠足を生活班で行動するのか、好きなもの同士で行動するのか…。クラスで「お互いに協力しあって…」という目的を考えた結果、生活班で行動することが決まりました。当日、楽しい遠足のはずが、どんどん先に行く人、野草を見ながらのんびり歩いてくる人…。みんなが自分勝手な行動をしてしまい、グループ内で仲間割れを起こしてしまいました。楽しみたい、ルールを守りたい、など自分のたちの思いを伝えあったところ、大切にしていることが人それぞれ違うことがわかりました。人それぞれに“らしさ”があって、このことが「みんな違って、みんないい」であることに気が付くことができました。

体育大会に向けての思いはさまざまです。クラスで団結するために、互いに認め合って、みんなで頑張って全力を出すことはできましたか。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・意見が違うことはたくさんあるので、たくさん話をして、その人を知ることが大切だと思った。
- ・集団行動をするということは、一人ひとりが勝手なことをしていたらだめだと分かった。自分勝手なことをせずに、人のことも考えて行動することが大切だと思った。
- ・人によって考え方や意見が違うから、相手の意見を批判しないようにしたい。バカにしたりせずに、尊重しあえるようにしたい。
- ・友達と話していて、意見が違うことがたくさんあるけれど、自分がする行動も発言も相手の気持ちを考えてからするようにしたい。



“言葉おしみ”

今年度から道徳は“特別の教科”となり、3年生も新しい教科書を使って授業をしています。体育大会直前の授業では『言葉』の奥に隠された思いについて考えました。駅の改札で困っている人を見かけたら？トイレに並ぶ人の列ができていたら？あなたはイライラせずに「ゆっくりでいいですよ」「お先に」「お待たせしました」という言葉かけができますか？



最近では、呼ばれたのに返事をしない、人と話をするのを面倒くさがるなどの“言葉おしみ”が大人でもあるそうです。思いやりある言葉かけは、人と人とを結びつけますが、たった一言で人間関係が壊れてしまうこともあります。言葉は、本当に大切なものです。春日丘のみなさんには、誰かがつらいとき、しんどいときに思いやりある言葉を紡げる人になってほしいと思っています。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・言葉一つで友達関係がくずれたり、もっと友情が深まったりする。相手のことをしっかり考えて話したいなって思った。自分だけがいい思いをするんじゃなくて、相手のことを思う。
- ・言葉の裏にたくさんの気持ちをのせるのは、この国特有のものかなと思う。伝えたいことは言葉にのせて伝えようと思う。
- ・思いが大事かなと思った。でも思いだけで相手を嫌な気持ちにさせないようにするのは無理だから「ありがとう」や「話聴こか」などの相手にも伝わる言葉をかけるべきだと思った。
- ・言葉の奥にある「心の声」に気づいてあげられる人になりたいと思った。気持ちが荒いときほど周りにそれをあたったり、移したりしないようにしたいと思った。
- ・人を助けてあげられるように正しい言葉選びを心がけたい。そうすれば最終的には自分のもとへ戻ってくるはずだろう。